

クラウドシフトを円滑に推進していくために

# Equinix Fabric<sup>®</sup>のすすめ

大企業はもちろんのこと、中堅・中小企業でもクラウド化への取り組みは着実に進んでいます。また一方で、クラウドシフトしたものの、社内のサーバールームやデータセンターへのオンプレ回帰を選択する企業も出てきました。企業システムのハイブリッド化は自然な流れではありますが、オンプレミスをそのままの状態では、ハイブリッドクラウドのメリットを十分に引き出すことは困難です。実際に多くの企業が、以下のような課題に直面しています。



## 課題1

### ネットワークの複雑化

オンプレミスシステムでは、一般に基幹のデータセンターやサーバールームと各拠点が通信回線やVPNによって接続されます。既存システムをクラウドと接続・連携するために、これらネットワークを拡張していく必要が生じますが、接続先のクラウドサービスの増加に伴い、ネットワーク構成はより複雑化し、**管理負担の増大や、その結果意図しない障害を引き起こす要因になる**こともあります。また例えばクラウドサービス毎に個別に回線を契約すると、当然ながらコストも増大します。



## 課題2

### クラウド接続の遅延

オンプレミスとクラウドを接続した場合には、そこで発生する遅延も大きな問題になります。遅延が大きくなればデータをやり取りする際の**レスポンス時間が長くなり、性能上のボトルネックになってしまう**からです。基幹系システムはオンプレミス、情報系システムやデータ分析はクラウドで動かしたい場合でも、両者の連携がスムーズにいかないケースは少なくありません。



## 課題3

### セキュリティの不安

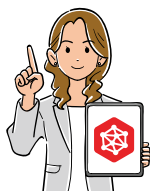
従来は各拠点や端末からのクラウドへのアクセスを、VPNなどを使用して基幹のデータセンターやサーバールームに集約し、そこからクラウドへ接続するのが一般的でした。しかしこの方法ではVPNの負荷が増大するため、最近では各拠点や端末から直接クラウドにアクセスする「**ローカルブレイクアウト**」を行うケースも増えています。しかしこのようなネットワーク構成では、**セキュリティに必要な通信管理を集中的に行えなくなります**。



## 課題4

### 災害復旧に時間がかかる

広域災害への対応を低コストで行うため、DRサイトをクラウド上に構築する企業も増えています。これによって災害時にサーバールームが被災した場合でも、クラウドからデータをリストアし、業務を継続できるようになります。しかし**クラウドとの通信が遅ければ、リストアに膨大な時間がかかる**ようになります。差分バックアップの時には小さかった影響が、リストアの際には予想以上に大きくなってしまいます。

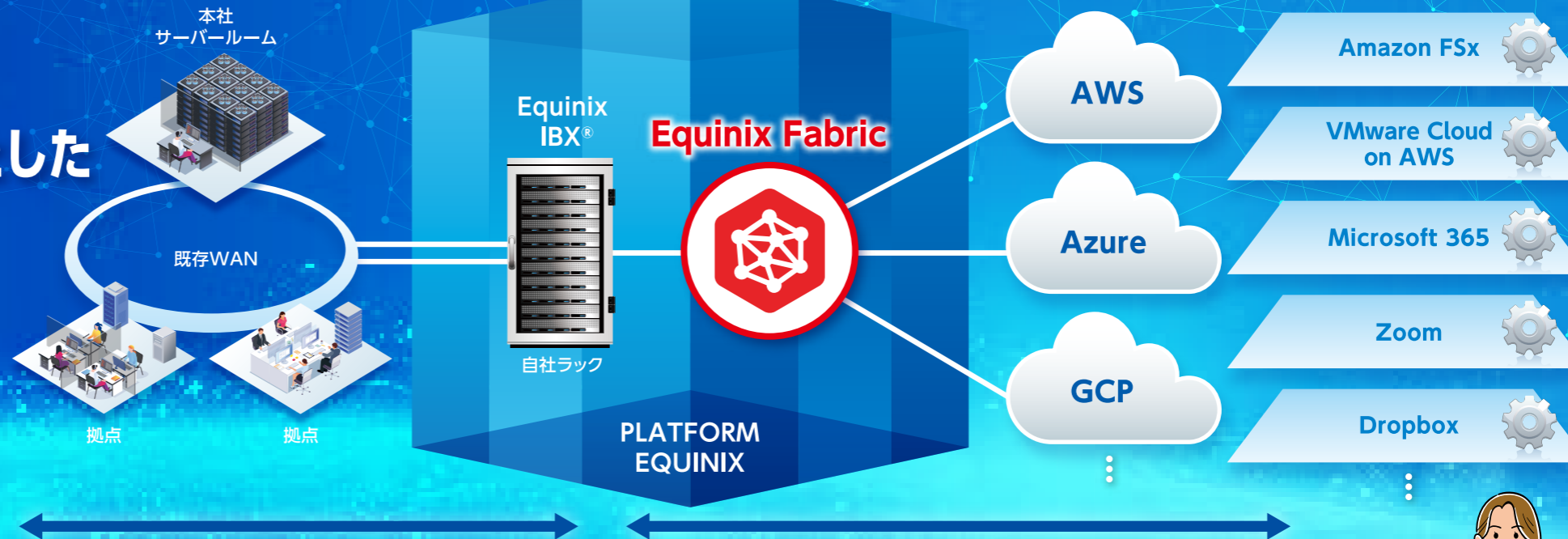


これらの問題を全て解決するための第一歩

# それが「Equinix Fabric」です

# 企業ネットワークを Equinix Fabricを中心とした システムアーキテクチャへ。

そこでお勧めしたいのが、Equinix Fabricを中心としたシステムアーキテクチャへの移行です。まず既存ネットワークをEquinix IBX※1に接続し、ここにオンプレミスシステムの一部を移設。さらにEquinix IBXと各クラウドを、Equinix Fabricで接続します。このように既存のオンプレミス～Equinix～マルチクラウドで構成されるシステムを実現することで、以下のようなメリットがもたらされます。



- ネットワーク構成をシンプル化
- 通信集約化でセキュリティが向上
- クラウド接続の時間遅れを最小化
- データリストア時間を短縮
- クラウドの多拠点化／グローバル展開も容易
- さらなるクラウドシフトの足がかりに

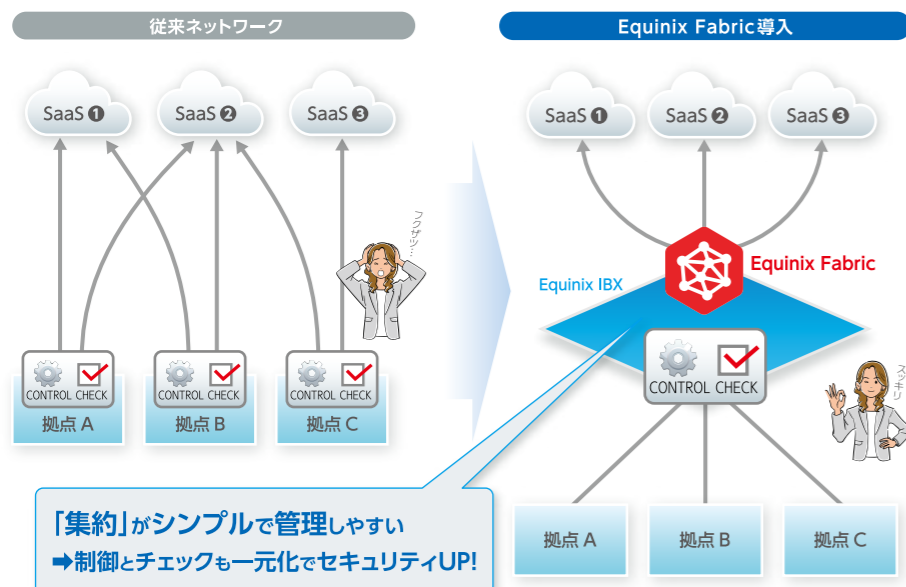
※1 Equinix IBX: Equinixのデータセンター



## メリット 1

### ネットワーク構成がシンプルに

クラウド接続をEquinix Fabricに集約することで、クラウド接続のネットワーク構成をシンプルにできます。既存のオンプレミスシステムとの接続は、すでに運用しているネットワークをEquinix IBXに接続するだけ。利用するクラウドサービスを追加する場合も、Equinix Fabricに新たな接続先を設定するだけです。また、各クラウドサービスへの接続環境を集約することで、通信コストの最適化が図れます。



## メリット 2

### クラウド接続の集約によるセキュリティ向上

各拠点からクラウドへの通信はいったんEquinix IBXへと集約されるため、Equinix IBXの自社ラックにセキュリティアプライアンスを設置することで、クラウドとの間の全ての通信をチェックできるようになります。またクラウド接続のレイテンシが小さいため、クラウド型で提供されている各種セキュリティサービスとの連携も、スムーズに行なえます。

## メリット 3

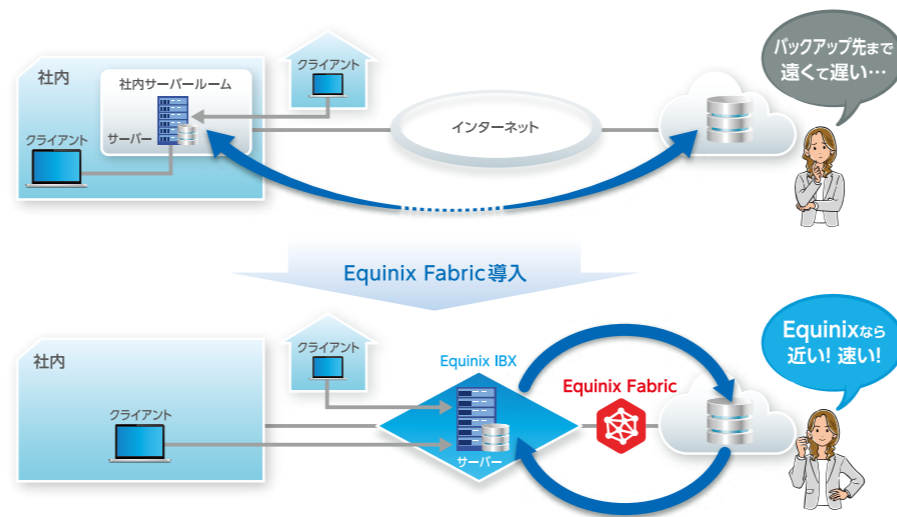
### 最もクラウドに近いオンプレミス環境を実現

Equinix Fabricは、各クラウドサービスと直接接続され、ネットワーク同士が隣接しています。そのため通信のレイテンシが極めて小さく、Equinix IBXと各クラウドを連携させた処理も高速に実行できます。重要なデータはEquinix IBXの自社ラックで管理し、クラウドからアクセスしてデータ分析する、といったこともスピーディに行えます。これとは逆に、クラウド上にファイルサーバーを置いて各拠点からアクセスするという場合でも、全体的なレスポンスの改善が期待できます。

## メリット 4

### クラウドバックアップと確実なデータ保護

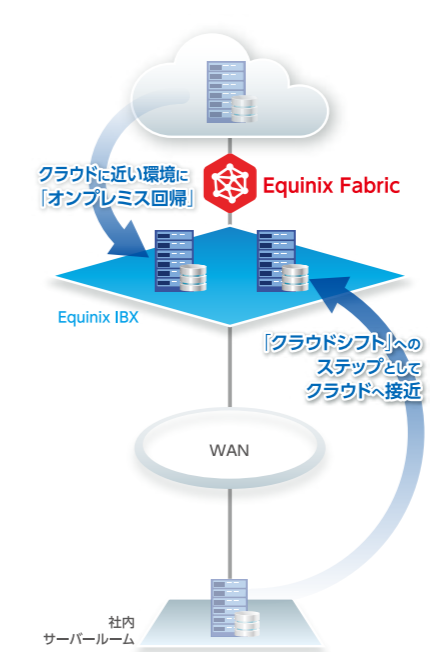
クラウドと隣接するEquinix IBXをデータセンターにすると、クラウドへのデータバックアップがより合理的になるだけでなく、リストア・DRの計画もより確実にすることができます。クラウドとデータセンター間のネットワークパフォーマンスが最適化されるため、バックアップ・リストアにかかる時間を最小化できることはもちろん、DRのプランもオンプレミス（データセンター）、またはクラウドと複数のプランを図ることができ、単なるバックアップではなく、真のBCPの実現に寄与します。



## メリット 5

### オンプレミス回帰も柔軟に

既にクラウドへの移行を全面的に実施した企業であっても、クラウド利用料の増大などからオンプレミスへの回帰を図るニーズも少なくありません。そのような場合でも、クラウドに隣接するEquinix IBXは、クラウド構成におけるメリットを活かしたままオンプレミスシステムを構成することができます。



## メリット 6

### クラウドの多拠点化／グローバル展開も容易に

Equinix Fabricは、数多くのクラウドサービスの拠点と物理的に接続されているため、マルチリージョンの利用にも適しています。例えばAWSの東京/大阪リージョンを同時に使いたい場合、それぞれのリージョンへネットワークを別々に接続する必要はなく、Equinix Fabricのサービス管理画面から必要時にコネクションを形成するだけで済みます。メインのアプリケーションはグローバルに展開し、データを管理するシステムは各サービス提供地域内に限定する、といった構成も容易に実現できます。



# Equinix活用を強力に支援する デジタルテクノロジーの サポートサービス

デジタルテクノロジーは、Equinixの各サービスの活用を一気通貫でサポート。既存システムのアセスメントから、お客様のデジタル戦略に最適なアーキテクチャ設計、ラックの構成設計、データやアプリケーションの配置設計、サーバーなどの機器移設に必要な部材の手配、機器移動の際のトラック手配、機器設置・配線、その後の運用支援まで、すべてお任せいただけます。

## ハイブリッドクラウド化は「クラウドイージーサポート」で解決

Equinixを足がかりにした「クラウド移行」も「オンプレミス回帰」も、以下の4つの柱で構成される「クラウドイージーサポート」で、強力に支援しています。

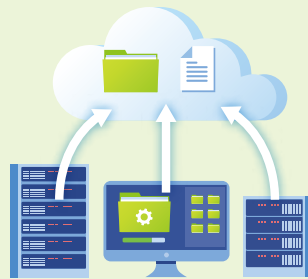
### クラウドと既存ネットワークをスムーズに連携 D-Cloud Connection

お客様環境の現行調査から、ご要望のヒアリング、トポロジー設計、構築作業に至るまで、ワンストップで実施。最適なネットワーク機器やセキュリティ機器、既存ネットワークと接続する回線もご提案します。



### オンプレミスからクラウドへスムーズに移行 D-Cloud Migration

当社で長年培ったノウハウを最大限に活用し、コンサルティングでご要望をお聞きした上で、最適な移行方法をご提案。その後の移行作業もご支援いたします。



### ハイブリッドクラウドのデータを確実に保護 D-Cloud Protection

オンプレミスからクラウドへのバックアップや、マルチクラウド間のバックアップなど、お客様環境に合わせた最適なデータバックアップソリューションをご提供いたします。



### 適切な運用でクラウドの効果を最大化 D-Cloud Operation

監視ソフトウェアを用いた稼働状況の自動監視や、運用担当者様への通知、DR利用時の切替試験など、日々の操作代行を含めたクラウド運用をご支援。適切な運用を行うことで、クラウドの効果を最大限に引き出すことが可能になります。



## クラウド イージー サポート

Equinixの活用とハイブリッドクラウド環境のご相談は、  
デジタルテクノロジーにお任せください。



デジタルテクノロジー株式会社

<https://www.dtc.co.jp/>

[東京] 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-23-1 エンパイヤビル  
MAIL : sales@dtc.co.jp

[大阪] 〒530-0001 大阪市北区梅田 1-13-1  
大阪梅田ツインタワーズ・サウス 15F  
MAIL : osaka@dtc.co.jp